

令和5年度 第3回企画展

ぐんまの  
長谷川町子

# 「鈴木ひで」

～水彩画と7000枚の絵手紙で綴る昭和・平成の記憶～



▲鈴木ひで  
(2004年 角田新八氏撮影)

令和5年

11/3 金・祝

12/13 水

- 開館時間 9:00～17:00 (入館は16:30まで)
- 休館日 木曜日 ただし11月23日(祝・木)は開館
- 駐車場 博物館敷地内(普通乗用車10台・大型バス2台程度)
- 入館料 大人200円、小中学生100円、小学生未満無料
  - ※団体は20名以上 2割引
  - ※障がい者手帳をお持ちの方と介護者1名は無料



Musée

中之条町 歴史と民俗の博物館  
Nakanajo Museum of Folk and History



〒377-0424 群馬県吾妻郡中之条町大字中之条町947-1  
TEL 0279-75-1922 URL <https://www.town.nakanajo.gunma.jp/site/myuze/>

鈴木ひでさんは大正15年に中之条町で生まれました。幼いころから絵を描くことが大好きでしたが、当時はイラストレーターなどの職業がない時代でした。厳格な父から「大人になっても絵なんぞ描いてるんじゃない」と叱られ、28歳のとき孀恋村からキャベツを積んだトラックが家の前を通ったので、下駄ばきのまま飛び乗って家出してしまいました。そして東京の知人宅にころがりこんで絵を描き続けたそうです。

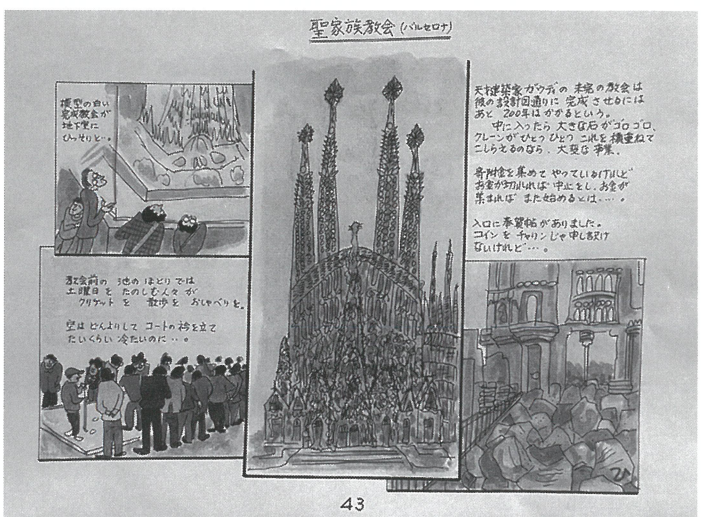
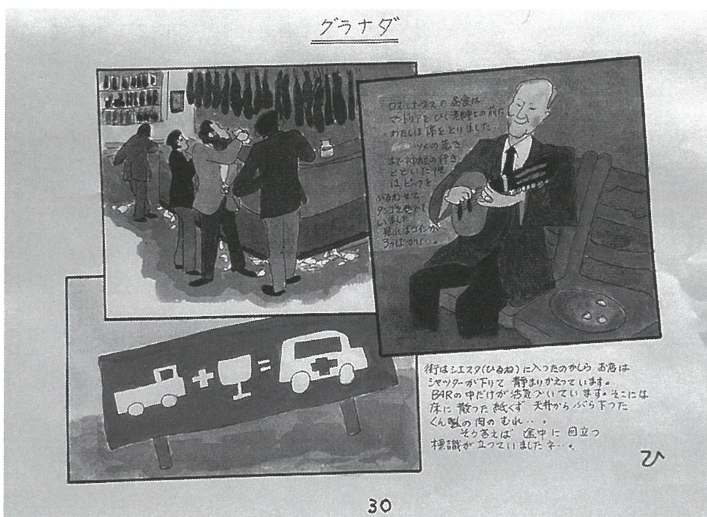
その後、結婚してからは千葉縣市川市に在住し、趣味として水彩画教室を開いたり、展覧会に出品したりして、その画風は大変評判になってゆきました。日常の些細な事、幼い日の思い出、昭和・平成のふるさとの情景がユーモラスに、風刺のきいたタッチで描かれていることから、いつしか「ぐんまの長谷川町子」と呼ばれるようになりました。



どんど焼き(1998年1月14日)



とうかんや(1985年11月21日)



スペイン・ポルトガル旅行記(1986年11月21日~12月1日)

鈴木ひで(旧姓小坂橋) 略歴

- 1926(大正15) 中之条町の乾物商の9人兄弟の8番目として生まれる  
物心ついた頃から絵を描くことが好きで、紙と鉛筆があれば落書をし、時には壁やふすまにまで絵を描いていた
- 1940(昭和15) 県立吾妻高等女学校に入学
- 1944(昭和19) 旧中島飛行機小泉製作所に女子挺身隊として勤務
- 1953(昭和28) 少女時代からの夢であった絵のために、下駄ばきで孀恋キャベツのトラックに載せてもらい上京
- 1957(昭和34) 結婚、その後は千葉縣市川市に在住
- 1983(昭和58) アメリカの食品会社にイラストが採用される  
その後、アメリカに短期留学
- 1984(昭和59) 還暦を機に健康の願をかけ、毎日絵手紙を書くことを誓う  
姉に宛てた絵手紙は平成16年まで約20年続いた
- 1987(昭和62) この頃から千葉縣市川市、中之条町、六合村で水彩画教室を毎月開催
- 2018(平成30) 中之条町歴史と民俗の博物館「ミュゼ」で企画展「ふるさとの文化人 鈴木ひで」を開催
- 2022(令和4) 千葉縣市川市にて逝去 満96歳



すめらみくのにの乙女たち (1996年)



「中之条かるた」 (1995年)

